

# 山口市男女共同参画センター だより

平成24年8月号

発行:山口市男女共同参画センター  
編集:山口市男女共同参画ネットワーク広報委員会  
〒753-0074 山口市中央二丁目5番1号(山口市民会館事務所2階)  
TEL/FAX 083-934-2841 <http://www.y-djc.com/> [✉mw3kaku@c-able.ne.jp](mailto:mw3kaku@c-able.ne.jp)

## 国の動き

### 男女共同参画の視点で見る防災・復興 —平成24年版男女共同参画白書の公表—

#### 【復興の基本的枠組み】

平成23年6月に成立した東日本大震災復興基本法には、基本理念として、「被災地域の住民の意向が尊重され、あわせて女性、子ども、障害者等を含めた多様な国民の意見が反映されるべきこと」が掲げられています。

また東日本大震災復興対策本部が同年7月に策定した「東日本大震災からの復興の基本方針」には、基本的考え方として、「男女共同参画の観点から、復興のあらゆる場・組織に、女性の参画を促進する」ことが明記され、復興施策に男女共同参画、特に女性の視点を反映することが記載されました。

復興に係る意思決定の場での女性の参画状況を見ると、有識者から成る東日本大震災復興構想会議は15人中1人、同会議の下に置かれた東日本大震災復興構想会議検討部会は19人中2人が女性委員でしたが、平成24年2月の復興庁の発足に伴い新設された復興推進委員会で、15人中4人が女性委員となっています。

#### 【被災地における女性の就業・起業等の支援】

被災した地方公共団体の多くで、震災前から、高齢化や人口減少が進んでいます。地域における暮らしの再生に当たっては、少子高齢化社会のモデルとして、新しい形の地域の支え合いとともに、女性がその能力を十分に発揮して経済社会に参画することが重要です。

各府省においても、被災地における女性の就業・起業等を支援する取組が実施されています。

#### 【中央防災会議等の動き】

中央防災会議では、平成23年12月に「防災基本計画」を修正し、避難場所の運営における女性の参画を推進するとともに、女性や子育て家庭のニーズに配慮した避難場所の運営に努めること、仮設住宅の運営管理において女性の参画を推進し、女性を始めとする生活者の意見を反映できるよう配慮することなどをより具体的に盛り込みました。

#### 【男女共同参画社会の実現と防災・復興】

これまで見てきたとおり、女性は、男性に比べて、総じて災害の影響を受けやすいことが見て取れる一方、日頃から地域社会との関わりが少なくなりがち

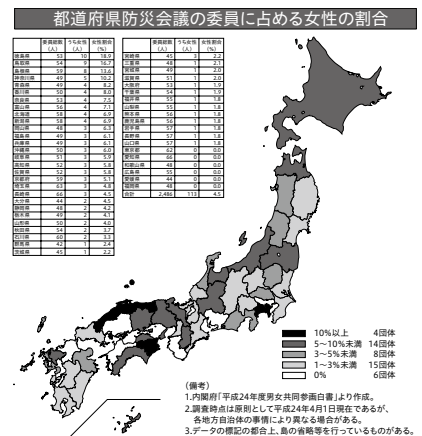
な男性には仮設住宅における孤立化が懸念されるなど、復旧・復興プロセスにおいて男女のニーズの違いに配慮が必要となっています。

他方で、救出・救助、被災者支援、復旧・復興、防災といった局面で、女性がその担い手として活躍しているにもかかわらず、国・地方公共団体いずれも防災や復興に係る政策・方針決定過程への女性の参画は、この一年でそれなりに改善の動きは見られるものの、なお今後の課題となっています。

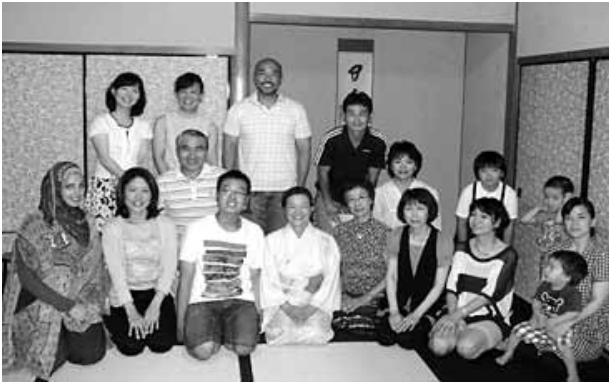
東日本大震災の教訓からは、災害対応における男女共同参画の視点が重要であること、多様な主体による円滑な災害対応のためには、国・地方公共団体、男女共同参画センター、大学、NPO、NGO、地縁団体、企業等の日頃からの連携が重要であること、また、防災・復興における政策・方針決定過程への女性の参画が必要不可欠であることが改めて明らかとなりました。

男性に比べて災害時に負の影響を受けやすい女性は決して守られるだけの存在ではなく、平時から男性とともに災害への備えに主体的に取り組むべき存在でもあります。

声を出しにくい人々、あるいは声を出してもその声が届きにくい人々に配慮し、誰をも排除しない包摂型の社会づくりを行っていくことは、災害による影響を受けやすい脆弱な人々の社会的排除（地域社会で人間関係を保てずに孤立したり、必要なサービスを受取できなかったりする状態）のリスクを低減することにつながります。この視点は、被災地あるいは災害発生時に限られることなく、社会全体の在り方に関わることであり、日頃から必要とされるものです。男女共同参画社会の実現は、災害に強い社会づくりでもあります。



## 異文化交流～茶道を体験しよう



6月30日、小郡下郷の黒畑邸において、「茶道を体験しよう～国の違いを理解しあえるなまづくり～」と題して、海外の方を交えて茶道体験会を開催しました。茶道のマナーの説明・部屋への入り方・席への着き方・お菓子を頂く・お手前・お茶を頂く・お手前と一連の作法を学びました。

### 参加者の声

☆張さん（山口県立大学留学生）

中国青島から留学生と今日の為に来る前に指導していただいたと、お茶のお点前を黒畑先生に指導され、一生懸命にされました。中国では、まだ一人っ子政策で彼も一人だそうです。英語・中国語・日本語も堪能で、電子辞書でお茶の勉強をしていました。中国では2人目の出産では16万元〔250万〕必要だそうです。夫婦は別姓、仕事もそれぞれしているということです。

☆T.K.Oguraさん（山口在住）

英会話講師・テキサスから来られて日系二世で、

お茶の体験は初めてでした。アメリカはお茶を飲むのはただ飲むだけで、日本の茶道の様に空間の美や侘びや寂びの文化はすばらしいと感激されていました。テキサスはスパニッシュ系や中国系の人が多く、白人は最近では少なくなりました。多民族の都市で、文化は民族的にたくさんあります。今ダルビッシュの影響で野球がクローズアップされています。☆Doaaさん〔サウジアラビア〕(山口大学大学院生)

日本の茶道は初めての経験で楽しかったです。サウジでは外では女性はアバヤ（頭からかぶる黒のマント風）を着ていますが、友人や家族とは家の中で会い、アバヤは外します。自動車の免許は女性は取れません。

☆松原さん（山口県立大学大学院生）

茶道の体験は初めての経験で、掛け軸、季節の花道具、茶室、空間文化の中にすべてが網羅されているのに驚きました。今の日本に忘れられている文化を再生しないとイケないのではないだろうかと思えます。男女共同参画の精神は茶道の中にあると思えます。

◎異文化交流として、茶道から感じてほしいと思い企画いたしました。日本人が、海外の人に、文化を言葉で紹介するというのは、非常に難しいと思い、茶道を体感して、もの（道具・お茶碗や抹茶を入れる棗や茶筌、茶杓）との体感、ひとへの敬意、すべてが茶道の中に含まれています。子供さんの参加もあり、みなさんから次に繋がるよう期待しています。また新しい男女共同参画への啓発になったと思えます。

## 萩焼絵付け教室

平成24年7月7日 山口大学、山口県立大学から韓国、タイ、中国の留学生8名と市民8名が山口ふるさと伝承センターで、先生の指導のもと萩焼の素焼きの皿に絵付けをしました。

最初はデザイン集で図案を決めるのに時間がかかりましたが、決まるとみなさん思い思いに描き上げることができました。また、事前にインターネットでデザインを決めてきた留学生もおられ、中国からの留学生は寿老人を線画のように描き、焼き上がりを楽しみの様子でした。

終了後、山口市男女共同参画センターに移動して、留学生と市民の皆さんと懇談をしました。参加された市民の方で外国人と初めて話ができ感激された様子でした。また留学生が日本語をととても上手に話されるのにびっくりしておられました。

留学生も限られた日本人としか話す機会がなく、今回のような交流の場が沢山あればとても楽しい留

学生生活を送れるのにおっしゃいました。

後日、焼き上がった作品の出来栄えに喜んでおられました。



## 男女共同参画講座【10回シリーズ】



講師の磯野恭子先生

## 第1回 「男女共同参画社会が問いかけるもの」

(5月19日)

- 〔1〕 深刻な男女間の問題は  
デフレの解消…20年間景気の悪い日本  
男女共同参画社会をつくろう…日本は先進国中ジェンダー指数 57 位
- 〔2〕 経済成長力に日本は女性を使わない  
世界は変わってきています。女が活躍しやすい国ほど国全体の競争力が増加しています。誰かがしてくれるのではなく、女性から訴えていくことが大事です。
- 〔3〕 男は外、女は内の思想  
昭和を生きた女性たち…戦前女性には参政権がありませんでした。(戦争反対の懸念があったためか) 戦後になり婦人参政権、婚姻の自由、法の下での平等など GHQ のゴードンさんより取り入れられました。
- 男性の文化  
3つの思考 ①優越感 ②所有権 ③権力  
→支配的な立場に優越感  
伝統的な家族観…良妻賢母(家族を守る)  
=女性家は家を守るという考え方
- 〔4〕 男と女の黒い河とは  
配偶者控除年収 103 万円の壁・3号被保険者制度の年収 130 万円の壁・日本では女性が家事と育児の9割を担う…家庭の主婦は優遇されています
- 〔5〕 時代とともに女性の活力は使い分けられてきた  
1980年代は高度経済成長、1990年代はバブル崩壊、2010年代は失業問題といつも就労については女性が切り捨てられてきました。
- 〔6〕 女性の活性化をすすめるには  
政府の役割…女性の選別化が進む 21 世紀。  
性による雇用差別をやめる  
企業の役割…不景気、リストラに振り回されるのは女性。差別化の流れを作らないで  
個人の役割…競争に参入することを恐れるな
- 〔7〕 高齢化の波がやってくる  
・ マイナスにとらえない。  
・ 山口県型の生活システムづくり。  
・ 目的をもって生きていく。

・ 高齢者が活躍できる長寿社会。

〔8〕 日本の復活は

- ・ デフレ退治と男女共同参画社会への2本柱で日本は復活する
- ・ 企業は性による差別を撤廃する
- ・ 少子化をなくして、たくさん子どもが増えるように

## 第2回 「山口の女性の歩み」(7月21日)

〔1〕 この30年何が変わったか

女性に参政権が与えられたのは、アメリカで日本に普通選挙が実現されたのは、1925年でしたが参政権が賦与されたのは男性のみでした。女性の参政権を求める活動は、平塚らいてう、市川房枝の新婦人協会、日本婦人参政権協会等の団体の団結が図られ、婦人参政権獲得期同盟会が結成されて運動が推進されました。女性が公民権を得られるまでの女性の立場は、男性に絶対服従で奴隷状態、職業も女性の身売りや遊郭等で働くしか道具以下の状況でした。1922年のワシントン会議で軍縮条約を不満に持った日本は、関東軍の独断による柳条湖事件を契機に満州事変が勃発。日中戦争、第2次世界大戦へと国民総動員で突入していったが古い兵器しか持たない日本の結果は敗戦。第2次世界大戦後、日本国憲法草案にベアテ・シロタ・ゴードン女史が関わったことで「参政権賦与による日本婦人の解放」、婦人参政権も再開し衆議院に日本初の女性議員が39名誕生しました。

日本の婦人運動は、農村部から改善を試みました。山口県においても第29代田中龍夫知事が戦争未亡人を対象に女性討論を行いました。色んな職場で女性の進出が増え働く女性の為に保育所が県内に2箇所出来ました。農業分野では、特に自立を目指す女性の為に生活改善グループの活躍。

1975年 国連は、「国際婦人年」を決議、「世界行動計画」を採択し、女性の地位向上と男女平等の取組を推進。1975年、世界133カ国から参加しメキシコで開催されました。1980年男女雇用機会均等法が成立、日本は法律の整備に努めたが日本には、弱者を守る罰則がないのが現状で日本の社会は、色々な抜け道で女性保護がなされていません。

「天津市のいじめ問題」については、教育分野で児童の人権が教育現場でないのが「いじめ問題」があります。

山口県には、政策の決定が無く若年層への就職不足、少子化、人口の減少につながっています。

Q&amp;A

○世代別の差?

資料の世界貧困率でシングルマザーの現状がわかります。製造業の国内生産が海外へ移行しているのが女性の社会進出を拒んでいます。政策が若年層に解り易く解説されていません。

○女性の社会進出を男性が拒む

男性の生活習慣・慣習が変えることが出来ていません。

○雇用問題について

放送番組で女性が企業へ進出している紹介



## 浴衣でおまつりに行こう



山口に夏の訪れを告げる「山口祇園祭り」「山口七夕ちょうちんまつり」に合わせ、センターでは、ご家族みんなで、またパートナーと浴衣を着てお祭りを楽しんでいただこうと浴衣の着付けをさせてい

ただきました。

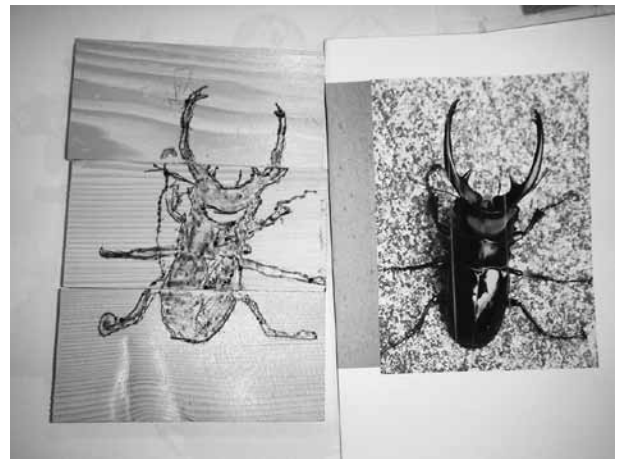
たくさんの若いカップルや留学生の方々の申し込みがあり、山口の夏の夜を楽しんでいただくことができました。

## 親子で作る夏休みの自由研究



8月11日(土)・12日(日)の両日、西田益朗氏を講師にお迎えして、夏休みの自由研究の作品作りが行なわれました。

作品はかまぼこ板に電気ゴテでカブトムシや自画像、キャラクター等を描くものと、小石にアクリル絵の具を塗り、絵を描くものの二種類です。



この講座には、両親や祖父母と小学生が参加して、それぞれが思いおもしろい作品作りをしました。

西田講師の親しみやすい人柄と、丁寧で優しい教え方に小学生からは「とても楽しい時間が過ごせました」との感想をいただきました。

## 大人のコミュニケーション講座

こころに何となく不安を感じる時、知人など他人と話をしていると、心が癒されることがあります。話す人、聴く人のこころが通じ合ったとき、友情や信頼感も深まり癒しを感じることがあります。病で悩んでいる人は、話を聞いてもらったり、会話することで、こころの安らぎと元気が得られ、新しい夢や展望が発見できるかも知れません。

そこで、柿川孝子さん（かきかわ統合医療相談室）を講師にお迎えし、「大人のコミュニケーション講座」を開催しました。

第1回目（6月23日）は、講師による講話とエゴグラムによる心理テストを行いました。

コミュニケーションは、こころの交流、気持ちのキャッチボールである。聞く（聴く）ことはコミュニケーションの基本です。

聞く姿勢として、短気にならない・相手の気持ちを誘導しない・無理に聞き出そうとしない・評論家にならないなどコミュニケーションの基本を教えてくださいました。

その後、「いま、ここ」の自我状態がどのような傾向かについて、簡易な質問に回答し、エゴグラムを参加者それぞれが作成しました。

第2回目（7月28日）は、前回の補習とワークショップを行いました。



前回のおさらいとして、「コミュニケーションとは、相互理解である。相手に恥をかかせない。非難しない配慮が大切である。初対面の人と打ち解けて話すために、表情、行動、呼吸、話、話のスピードを合わせる（ミラーリングの5つの方法）話の語尾をくりかえし、大切、強調したいことば・内容を理解してくりかえす（オウム返し）ポジティブな言葉で言いかえす。言いたいことを説明するとき、伝えたいことはなにかをまず整理する」など学ぶことができました。

実践編では、2人1組でお互いが、経歴や価値観、夢、目標などの自己紹介をし、全体発表のなかで相手方の「他者紹介」を行いました。

## ワークライフバランスで何が変わるのか？

日本の人口は、平成72年には、8,674万人になり、この内、生産年齢人口（15歳から64歳）は、4,418万人（割合50.9%）、65歳以上の老年人口は、3,464万人（割合39.9%）となるという試算があります。日本社会は、人口構造が急激に変化し少子高齢化が進行します。また、成熟社会によるライフスタイルの変化などから、これまでの男女の生き方が変わり、新しい社会における男女の新しい生き方を模索しなければならない時代になりました。

これまで、男女の生き方を決定づけていたものは、週50時間以上の長時間労働で働く男性がいて、家事や育児のことは女性が行って来ました。世界の中の男性の帰宅時間を見ると、フランスでは、50%が19時まで帰宅しているのに対して、日本の男性の帰宅時間は、20時以降が60%となっています。これまで、家事などシャドウ・ワークは、女性が行ってきたため、時間の融通のきくパートタイム労働が多く、男女の賃金格差が大きくなりました。一方、男性は、職場で家庭の事情を言えない状態でした。

ライフスタイルの変化を見ると、今や未婚化社会となっています。50歳での未婚率が男性では、20.14%、女性では、10.61%となっています。高齢化が進んで介護が必要になった時、これまでシャ

ドウ・ワークを担ってきた妻や母の部分の補う必要がでてきたことを意味しています。また、25歳から34歳の完全失業率が高く、男性の非正規雇用者が、平成22年には、15歳から24歳（学生を除く）で40%、25歳から34歳で10%超となっており、雇用環境の変化も大きな社会問題化しています。これら、未婚化や雇用、結婚の不安定化によって社会も変化してきました。最近では、親の介護をしなければならないために年間12万人が離職しているという状況があります。

これからの社会は、共働き世帯が増加しており、家事、介護などのシャドウ・ワークを女性だけが担う社会は成り立たなくなっています。働ける人が減少し、ライフスタイルの変化により多様な生き方を求める人が増えています。また、企業としては、生産人口の減少により人的資源の確保を考えなければなりませんし、国家の視点から見れば国家財政の悪化を回避しなければなりません。そのために、これからの時代は、硬直的な労働時間に縛られない多様な働き方が必要になり、単に、生産年齢の間だけではなく、生涯にわたるワーク・ライフ・バランスへの取り組みにより、年齢に応じていつまでも働き続けられる社会を創造して行かなければなりません。

### 男女共同参画センターフェスティバル

- 日時 平成24年9月29日  
 場所 山口市民会館・山口市男女共同参画センター
- 市民会館大ホール  
 記念講演…「続・悩む力」  
 講師 姜尚中氏（東京大学大学院教授）
  - 市民会館小ホール  
 「親子で昔あそび&子ども夜店」
  - 市民会館展示ホール  
 登録団体の活動発表、ネットワーク活動紹介
  - 中庭  
 ・アフリカンダンス（周防アマゾネス）  
 ・父と子のファッションコンテスト  
 ・しっちゃん鍋  
 ・ぜんざい・おむすびコーナー  
 ・特産物販売
  - 参画センター  
 ・「もっと知りたいスペイン文化」  
 ・二胡演奏  
 ・登録団体活動発表

### 企業におけるワークライフバランス

日時 10月19日(金)14:00～15:30  
 講師 ベネッセコーポレーション 池田 和 氏  
 場所 山口市男女共同参画センター視聴覚室

### 男女共同参画講座（10回シリーズ）

- 第4回「子供が危ない」  
 日時 9月15日(土)13:30～15:30
- 第5回「60年ぶりに教育基本法が変わった」  
 日時 10月20日(土)13:30～15:30  
 講師 磯野恭子氏（前岩国市教育長）  
 場所 山口市男女共同参画センター視聴覚室

### 防災講座（3回シリーズ）

- 東日本大震災は、私たちに災害についての大きな問いかけを残しました。山口県に住む私たちは自信をはじめとした自然災害にどう対処したらいいか考えます。
- 第1回「日本の災害（地震・津波・竜巻etc）」  
 平成24年9月8日(土)13:30～15:30  
 講師 金折裕司氏（山口大学大学院教授）
- 第2回「山口県の防災対策」  
 平成24年10月13日(土)13:30～15:30  
 講師 山口県防災管理課担当
- 第3回「被災地に入って一課題を今後に生かす」  
 平成24年10月27日(土)13:30～15:30  
 パネリスト 杉本邦男氏（山口災害救援お世話役）他

### 新エネルギー問題を考える（3回シリーズ）

- 東日本大震災による福島原子力発電所での事故以来、エネルギー政策が根底から見直しを迫られています。日々の生活と切り離せないエネルギーの問題について学び、これからの新しい未来をどう創っていくのか、今私たちに出来る事を考えてみませんか。
- 第1回「環境中の放射線に関する基礎知識」  
 平成24年9月1日(土)13:30～15:30  
 講師 山口県環境政策課職員
- 第2回「放射能と食の安全・安心について」  
 平成24年10月6日(土)13:30～15:30  
 講師 小川雅広氏（山口県立大学教授）
- 第3回「これからのエネルギーは？」  
 平成24年11月10日(土)13:30～15:30  
 講師 小森敦司氏（朝日新聞本社編集委員）

全ての申し込み先・問い合わせ先

山口市男女共同参画センター 〒753-0074 山口市中央二丁目5番1号（山口市民会館事務所2階）  
 TEL/FAX 083-934-2841 <http://www.y-djc.com/> [✉mw3kaku@c-able.ne.jp](mailto:mw3kaku@c-able.ne.jp)

## おんなの目 おとこの目

以前、長野県を中心に活動している「美咲」という歌手のコンサートのお手伝いをしたことがある。

このコンサートは、使用する電気は太陽光発電で賄う「光合

成ライブ」ということだったので、雨が降ったら中止になるのかと思っていたらそうではなく、あらかじめ晴れの時に蓄電池に充電してそれを使用するということであった。

「ソーラーカー」で移動されているのかと思っていたのだが、その時は「今は実現できていないが、将来的には是非やっ

てみたい」ということだった。

男女共同参画センターでは、9月から講座「新エネルギー問題を考える」がスタートする。今メディアで報道されている情報の中には必ずしも正確な情報でないものもある。ぜひこの講座を受講して頂き、エネルギーについての的確な見識をもって頂けるとありがたい。（た）